「新庁舎」と「ふれあいセンター」の２つの自立した建築が連携し、にぎわいを創る「市民活動のコア」－新しい社会基盤の創造－

薩摩大口駅周辺は、かつてにぎわいを生みだした伊佐の中心でした。
この場所に新たなにぎわいを創出するため、これまで親しまれてきた市の財産である「ふれあいセンター」についても必要な改修を厳選し、有効活用しながら、西側に「新庁舎」を並置します。
「新庁舎」と「ふれあいセンター」の２つの自立した建築が相互に連携しつつ機能を強化することで、伊佐市のこれからのまちづくりを先導し、いきいきとした市民活動が生まれる場「市民活動のコア」を提案します。

図１：新たなにぎわいの拠点となる「市民活動のコア」

基本的な考え方　２つの軸で４つの場をつなぐ、明快で連携しやすい計画

シンプルで明快な敷地利用により、市民に分かりやすい施設づくりを行います。

❶東西軸：２つの建築を結ぶ「連携ロビー」
・南北に長い「ふれあいセンター」にコンパクトな「新庁舎」を並置させ「連携ロビー」で２つの建築を結びます。

❷南北軸：２つのオープンスペースを連携する「ふれあいパサージュ」
・敷地南側に中央公園、北側に駐車場を配置し、明快に歩車分離します。
・南北のオープンスペースを「ふれあいパサージュ」で結び、相互の共用効果と利用者のアクティビティを高めます。

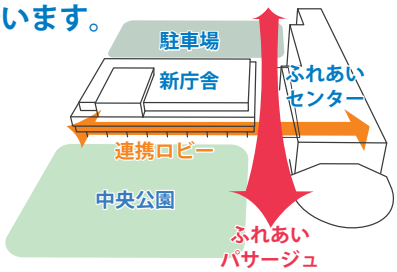

図２：２つの軸でつなぐ「市民活動のコア」

特に配慮する事項　既存施設と伊佐の環境を最大限に活用することで財政に寄与

新庁舎はシンプルでコンパクトな１棟とし、分棟や複雑な形態とせず、イニシャル・ランニングともに縮減します。

❶イニシャルコスト削減：既存施設の活用で新庁舎面積を２割削減
ふれあいセンターの機能を充分に吟味し庁舎機能を取入れ、新庁舎面積を約２割削減し、該当額の約６.５億円を改修や省エネに活用します。

❷ランニングコスト削減：伊佐の環境特性に配慮した建築形態で光熱費３割を削減
伊佐の夏の強い日射などに対して、環境負荷に配慮したコンパクトな形態、彫りの深い縦ルーバー、エコボイドなどを用いた日射制御、自然採光、自然通風などにより光熱水費を年間約 600 万円削減します。

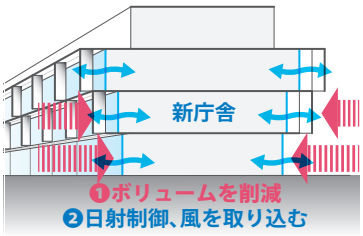

図３：地域の特性から生まれた建物形状

特に配慮する事項　市民と一緒に創る「新しい生活様式の時代の社会基盤」

人口減少やニューノーマルな社会の市民交流や行政サービスの熟議を行います。

❶「伊佐まちづくり会議」：市民代表、市、有識者、設計者などで構成、伊佐市の将来のイメージを議論し、「新庁舎」・「ふれあいセンター」の計画に反映します。

❷「伊佐ワークショップ」：市民団体などと協力し、市民の意見反映や「市民活動のコア」・「まちづくり」などのイベント、ワークショップを開催します。

図４：市民とともにつくる取り組み体制

取り組み体制・チームの特徴　多様な機能、伊佐の地域性、公共施設の改修を熟知

❶多様な機能の集合体である「市民活動のコア」の相乗効果を高める
・市庁舎や図書館、公民館やホールの豊富な経験者で対応します。
・伊佐市内の公共施設の実績がある鹿児島県内 JV と連携します。
・70 年以上の歴史を持つ代表企業の豊富な公共施設の改修実績を「ふれあいセンター」の改修に活用します。

スケジュール　「新築」と「改修」を総合的にマネジメントするロードマップを設定

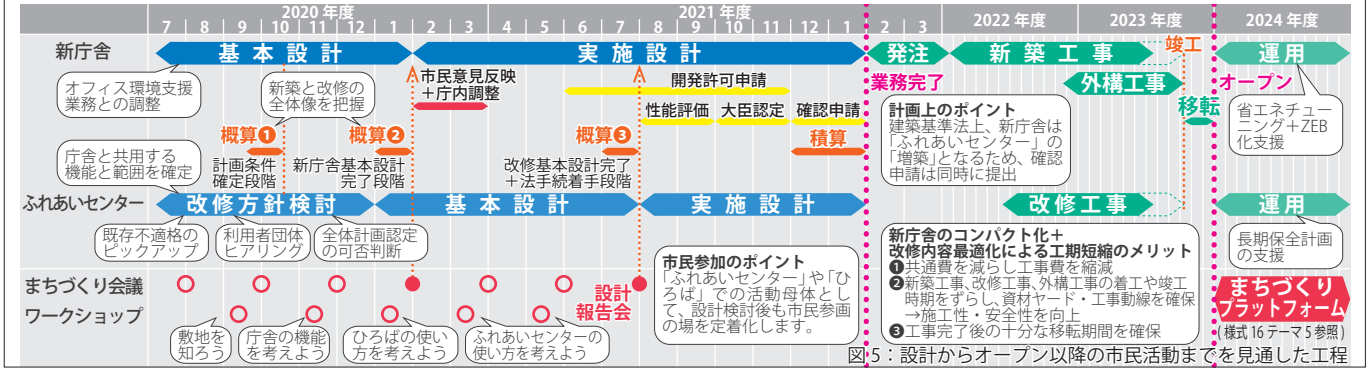

図５：設計からオープン以降の市民活動までを見通した工程